

令和元年度

行政視察報告書

大船渡市議会 教育福祉常任委員会

教育福祉常任委員会行政視察概要

- 1 視察年月日 令和元年7月22日（月）～7月24日（水）
- 2 視察先及び視察項目
 - I 山口県下関市（7月23日）
 - 下関市次世代育成拠点施設「ふくふくこども館」について（現地視察）
 - II 福岡県太宰府市（7月23日）
 - 太宰府市総合体育館「とびうめアリーナ」について（現地視察）
- 3 視察参加者 議員6名、市当局職員1名、事務局随員1名、計8名

委員長	船	砥	英	久
副委員長	田	中	英	二
委員	紀	室	若	男
委員	三	浦		隆
委員	東		堅	市
委員	金	子	正	勝
当局職員	金	野	高	之（教育次長）
随 行	新	沼	圭	史郎

◎ 目 次	
I 山口県下関市	
1 下関市の概要	2
2 下関市次世代育成拠点施設「ふくふくこども館」について	3
II 福岡県太宰府市	
1 太宰府市の概要	9
2 太宰府市総合体育館「とびうめアリーナ」について	10

I 山口県下関市

1 下関市の概要

市制施行	平成 17 年 2 月 13 日
人 口	257,890 人 世帯数 115,941 世帯(平成 31 年 4 月 1 日現在)
面 積	716.10km ²
産業別人口比率	第 1 次 4.5% 第 2 次 23.5% 第 3 次 70.0%
議 員	34 人
職員定数	2,696 人 (うち議会事務局・現員数 15 人)
財 政	平成 31 年度一般会計予算 114,510,000 千円 (歳入内訳:市税 29.0%、地方交付税 22.8%、国県支出金 21.7%、 市債 7.9%) 特別会計予算(13 会計) 76,487,322 千円 企 業 会 計(5 会計) 100,433,085 千円 財政力指数 0.549 実質公債費比率 10.0% 経常収支比率 97.6%

○地勢

下関市(しものせきし)は、本州最西端部に突き出た半島状の地形で、東南に周防灘、西に響灘と海に面し、南は関門海峡を隔てて対岸の北九州市と、東は陸続きで山陽小野田市、北は長門市と接しており、三方を海に開かれるとともに天然の良港を有し、豊浦山系の支脈をなす大部分と標高 100m 以下の丘陵からなり平野に乏しい起伏の多い地形のほか、標高約 300m の山々が連なる丘陵地帯や、山林地帯、平野地帯が存在するなど豊かな自然環境に恵まれた地形となっている。

○沿革

昭和 45 年 6 月の関釜フェリーの就航、昭和 48 年 11 月の関門橋の開通、そして昭和 49 年 7 月には中国縦貫自動車道の供用開始、さらには昭和 50 年 3 月の国鉄山陽新幹線の開通など、わが国の主要な陸上交通の幹線が集中し、陸海交通の結節点として、またわが国屈指の港湾水産都市として、古くから海陸交通の要衝となっている。

また合併により、源平最後の合戦の場である壇ノ浦古戦場、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘が行われた巖流島、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムなどの歴史的観光資源、日本の水浴場八十八選にも選ばれた土井ヶ浜海水浴場、市立しものせき水族館をはじめとする観光施設に加え、川棚温泉、一ノ俣温泉など多くの温泉地を有することで滞在型観光の拠点としての魅力を併せ持っている。

平成 17 年 2 月 13 日「自然と歴史と人が織りなす交流都市」をまちづくりの基本理念として、旧下関市と旧豊浦郡 4 町(菊川町・豊田町・豊浦町・豊北町)の対等合併により新たに設置された、人口 25 万人を擁する県下最大の都市である。

2 下関市次世代育成拠点施設「ふくふくこども館」について

□ 説明 指定管理者 下関こども未来創造ネット

下関市次世代育成拠点施設「ふくふくこども館」は、下関駅にぎわいプロジェクト（下関駅周辺整備事業）の一環として整備され、供用されている。

○ 下関駅にぎわいプロジェクト（下関駅周辺整備事業）

（1）事業の目的

本事業は下関駅周辺において、下関市の玄関口にふさわしい魅力ある集客・交流機能の導入や、既存施設と十分連携した相乗効果の期待できる拠点整備を行い、下関駅周辺の回遊性を高め、交流によるにぎわい創出を図ることを目的としている。

「下関駅周辺のにぎわい・交流拠点の創出、街なか生活の再生、街なか回遊を創出するまちづくり」を大目標として、次の3つの目標を掲げている。

- ①多彩な魅力が備わり、ゆっくり訪れたい街
- ②愛着をもって、いきいきと暮らせる街
- ③歩きたくなる、回遊したくなる街

これらの目標の実現を図るため、民間活力を活用して「JR下関駅ビル」を整備し、市が駅前広場などの面的整備を行う。

（2）「ふくふくこども館」供用開始までの事業の主な経緯

平成15年1月13日：JR鉄道関連施設整備推進協議会設置（下関市、西日本旅客鉄道㈱）

平成17年2月3日：「下関駅舎改築プラン作成協議会」設置（下関市、西日本旅客鉄道㈱、㈱山口銀行）

平成17年12月28日：「下関駅にぎわいプロジェクト」基本構想の公表

平成18年1月7日：下関駅舎の焼失

平成20年12月12日：「下関駅にぎわいプロジェクト」基本計画の公表

平成23年5月17日：下関駅舎部工事着手

平成26年4月1日：下関市次世代育成支援拠点施設「ふくふくこども館」供用開始

（3）事業の概要

- ・事業名 下関駅にぎわいプロジェクト（下関駅周辺整備事業）
- ・事業区域 下関駅周辺
- ・事業区域面積 約98ha
- ・事業手法 国の補助事業である社会資本整備総合交付金において、「暮らし・にぎわい再生事業」の基幹事業について国の支援を受け、事業を実施。

(4) 暮らし・にぎわい再生事業（民間）の内容

J R 下関駅ビル

〔事業費〕 約 43 億円（民間費約 24 億円、国費約 5 億円、市費約 14 億円）

〔規模〕 敷地面積：約 3,200 m²、延床面積：約 8,100 m²

〔主な用途〕

商業施設（リピエ：ファッション、雑貨、飲食）

下関市次世代育成拠点施設「ふくふくこども館」（次世代育成拠点施設フロアを市が購入）

○ 下関市次世代育成拠点施設「ふくふくこども館」

(1) 施設の目的

次代を担う子どもたちを多世代で育み、もって子どもの健全な育成と子育てをしている家庭の支援を図る。

(2) 施設の概要

- ① 名称 ふくふくこども館
- ② 構造 鉄骨造
- ③ 面積 3 階フロア全体 2,676.38 m²
 - ・プレイランド 987.61 m²
 - ・交流スペース・クリエイティブランド 360.95 m²
 - ・多目的室 198.27 m²
 - ・こども一時預かり室 47.87 m²
 - ・相談室 48.7 m²
- ④ 運営形態 指定管理 指定管理者：下関こども未来創造ネット（共同事業体）

(3) 利用状況

年度	来館者数	内プレイランド	市内	市外
平成 26 年度	249,940 人	165,913 人	72.9%	27.1%
平成 27 年度	186,779 人	137,611 人	69.8%	30.2%
平成 28 年度	186,629 人	138,709 人	69.3%	30.7%
平成 29 年度	203,865 人	122,583 人	67.8%	32.2%
平成 30 年度	197,161 人	128,426 人	65.8%	34.2%

【主な質疑応答】

Q. この「ふくふくこども館」で働く方は何名か。

A. 21 名である。うち半分はパート職員である。パートといっても時間的にはフルタイムであり、20 日間勤務の方が半分、月に 10 日～14 日間勤務が半分というところである。

Q. 利用状況は、どの程度であるか。

A. プレイランドは、簡単に言うと、親子が無料で遊べる環境ということで、屋内の公園である。今は夏休み期間なので、結構多くの方が利用しているように感じられたと思うが、日頃はこの半分くらいであり、土日はこの 2～3 倍くらいである。特に土日は、市外の方が増える。年間の利用者数は、プレイランドだけで 12～13 万人である。

Q. 利用者の声はどのようなものがあるのか。

A. 去年は猛暑であって、そのときは特に利用者数が多かったのだが、保護者からは、日に焼けない、砂まみれにならない、涼しい、何時間いても無料、快適で利用勝手がよい、おもちゃは勝手に用意してくれる、職員が子供達の遊びを見守ってくれるから安心、危ないことをすれば注意してくれるなどの声がある。

毎日訪れていただいているリピーターも多く、利用した子供達の 3 人のうち 1 人は、帰るときになると泣き叫んで帰りたくないという状況になる。

Q. 働く方は 21 名とのことであるが、全員が市の職員であるのか。

A. 3 対 1 ぐらいの割合で、社会福祉事業団という社会福祉法人に雇われた者と下関こども未来創造ネットに雇われた者である。

Q. いろいろな子供向けのイベント企画を展開されているが、企画をしているのは下関こども未来創造ネットであるのか。

A. 企画に関しては、市の関わりはなく、指定管理者側で全て企画している。

Q. 指定管理料 6,200 万円と修繕料 300 万円で事業を行っているとのことであるが、収益はどうなっているのか。

A. ほんの僅かなものである。一時預かり室は、保育士が常時 2 名体制であり、月に 50～60 人くらいを預かる。200 時間預かったとして、10 万円程度の収入である。職員は 5～6 人くらい雇っているので、給料は少なくとも 50～60 万円くらいはかかっている。

利用料収益では、給料を賄いきれないので、指定管理料を市からいただいております。ここの収益で賄っているわけではない。多目的室も年間 100 万円くらいの利用収益でしかない。行っている事業はだいたい赤字であり、総じて赤字の事業を指定管理料で

賄い、事業運営をしているところである。

○所感

「ふくふくこども館」は、フロア全体が白地にカラフルな装飾であり、屋内でも明るく、安全性の観点からも子ども達が伸び伸び遊べる空間が形成され、にぎわい創出に向けて施設設備の細部にわたり創意工夫の取組がなされていた。

また、駅ビルに設置されており、交通の利便性が良いことはもとより、多くのリピーターがいることなどからも、利用者にとって非常に利用勝手の良い施設であり、子育て支援の場としての拠点施設であることが感じられた。



交流スペース



いろいろなものづくりプログラムを開催するクリエイティブスクエア



子ども向けの
絵本が用意さ
れたライブラ
リーラグーン



親子とも無料
で利用できる
プレイランド
(親の同伴必
須、下足スペ
ース)



デザインのオ
リジナル製に
こだわり、安全
性の高いクッ
ション性に富
んだ遊具設備





関門橋をモチーフにしたゆらゆらの大型ネット遊具



各種イベントを行う人工芝広場のある屋上



ふくふくこども館の入口（ＪＲ下関駅ビル３Ｆフロア全体）

Ⅱ 福岡県太宰府市

1 太宰府市の概要

市制施行	昭和 57 年 4 月 1 日
人 口	71,136 人 世帯数 31,341 世帯 (平成 31 年 3 月 31 日現在)
面 積	29.60km ²
産業別人口比率	第 1 次 0.8% 第 2 次 16.8% 第 3 次 78.1%
議 員	18 人・現員数 18 人
職員定数	360 人 (うち議会事務局・現員数 6 人)
財 政	平成 31 年度一般会計予算 24,426,230 千円 (歳入内訳:市税 33.9%、地方交付税 15.4%、国県支出金 28.0%、 市債 7.7%) 特別会計予算 (4 会計) 13,678,680 千円 財政力指数 0.68 実質公債費比率 0.5% 経常収支比率 92.1%

○地勢

太宰府市 (だざいふし) は、福岡市の南東約 16 km に位置し、北東部は糟屋郡宇美町、南東部は筑紫野市、北西部は大野城市に接する。東に宝満山、北に四王寺山を有し、南から西北に開け、市を縦貫する御笠川は宝満山に源を発して南流し、市街地で鷺田川、大佐野川と合流し、博多湾に注いでいる。

また、国内主要都市及び海外の玄関口である福岡空港にも近接し、大学 3 校、短期大学 2 校、専門学校 1 校、高校 4 校、特別支援学校 1 校が設置されるなど、交通、気候、風土、景観に恵まれた住宅・文教都市である。

○沿革

太宰府市は、古代においては、太宰府政丁の所在地として九州地方の政治・経済・外交の要となり、わが国の文化活動の一大拠点として重要な役割を占めていたことから、特別史跡や名所旧跡が数多く点在している。

明治 22 年町村制施行で、9 村が合併し水城村、3 村が合併し太宰府村となり、太宰府村は明治 25 年に町制を施行し、太宰府町となる。その後、昭和 30 年太宰府町と水城村が合併して新「太宰府町」となる。

かつては、御笠川流域に沿った水田稲作を中心とした農業と、太宰府天満宮門前町を中心とした商業が主要な産業であったが、福岡市を中心とした経済圏の中で、第一次産業、第二次産業の占める割合は次第に低下し、他市への通勤者の増加とともに小売業を中心とした第三次産業が活発化することとなる。

このような中、福岡都市圏の膨張に伴い、大規模な宅地開発や大学の立地などによる人口急増期を迎え、昭和 57 年に市制を施行し、「太宰府市」が誕生し、現在に至る。

2 太宰府市総合体育館「とびうめアリーナ」について

□ 説明 太宰府市教育委員会 教育部 スポーツ課

○建設の背景

これまで太宰府市の公共スポーツ施設は、量的にも質的にも十分とはいえず、施設の多くはスポーツ団体の利用で飽和状態となっていた。

また、いずれの施設も駐車場やコート数の不足、設備の不足等により、地区対抗の球技大会が開催できないという状況であり、市民から総合体育館の要望が強くなされていた。

さらに、平成 23 年の東日本大震災をうけ、市民の防災意識は高まりをみせていることから、災害時の避難所及び地域の防災拠点とするなど、複数の機能を併せ持つ「体育複合施設」が求められた。

このようなことを背景に、太宰府市総合体育館は、市民の健康増進及びスポーツ推進を図り、地域交流や文化的事業による市民の生きがいがいくりの場の提供及び災害時における地域の安全に寄与すること目的に、中規模大会を開催できるように建設された。

○施設の概要

愛称	とびうめアリーナ		
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上3階建		
延床面積	7,278.18㎡		
施設内容	1階 柔道場、剣道場、多目的ラウンジ、軽運動トレーニング室、会議室、研修室		
	2階 アリーナ、控室2室		
	3階 ランニングコース		
利用可能なスポーツ・コート数			
	バスケットボール	競技用1面～2面	
	バレーボール	競技用1面～2面	練習用3面
	バドミントン	競技用8面	
	卓球	競技用24面	(別途常設10面)
	バウンドテニス	競技用8面	
	柔道	競技用6面	(別途常設2面)
	剣道	競技用6面	(別途常設2面)
駐車場	一般276台、大型9台、障がい者用10台		
駐輪場	約100台		
屋外施設	すくすく広場・まほろば広場(子ども遊具、健康遊具)		

防災・避難施設	避難所として位置付けられた施設としての耐震性能を確保（通常設計の1.25倍） 土嚢倉庫、防災備品の倉庫、軽油を燃料とする自家発電設備、井水設備、マンホールトイレ（5穴） 避難時受入人員数：500人 避難期間：2週間（燃料・食料の備蓄量は3日分程度） 避難者居住スペース：1,500 m ² （500人×3 m ² /人）
建設総事業費	3,473,570千円
財源	学校施設環境改善交付金（国庫補助） 防災拠点等再生可能エネルギー導入推進費補助金（県支出金） 学校教育施設等整備事業債（起債） 総合運動公園整備基金（基金繰入） 一般財源（空港周辺環境整備事業助成金を含む）

○指定管理者

グループ会社に委託 シンコースポーツ、西鉄ビルマネジメント、アシックス
 シンコースポーツ：館内の運営
 西鉄ビルマネジメント：箱物点検維持管理
 アシックス：優秀選手等の招聘

〔主な質疑内容〕

- Q.** 愛称のとびうめアリーナの「とびうめ」はどのようにして決まったのか。
- A.** 太宰府天満宮の本殿に向かって右側に、飛梅という白い早咲きの梅があり、これは京の都から、菅原道真を慕って一夜で飛んできたという伝説があるものであり、福岡国体の際にも「とびうめ」という愛称が使われており、福岡県章も太宰府市章も梅の花に因んだものであり、一般市民からの公募により「とびうめ」が採用決定となったものである。
- Q.** 人口が7万人ということであるが、推移はどのようなものか。
- A.** 現在は微増というところである。数年前に佐野地区の区画整理事業が完成し、その時に若い世代が多くなって、少し増えたというところである。太宰府市の面積の約16%が史跡指定をされており、一般的には網が掛かっている状況で、開発が小規模開発か市若しくは組合での区画整理というものしかできない上、高齢化も進展しているところである。

Q. 年間の指定管理料はどのくらいなのか。

A. 体育館は約 7,000 万円、プールは約 5,000 万円である。

Q. 本来の体育施設の使用の仕方ではないが、緊急時の防災上の組織運営というのは、どちらのほうでか、規約なり規程なり決め事かがあるものか。

A. 主たる管轄は防災安全課というところであり、緊急時の際には市長部局の方で運営することとなっている。今まで大きな災害もなく、長期に渡っての避難所としての運営はないが、実際に避難所の運営となれば、統括や指示は、市長部局の方からとなる。

〔建物の現状の問題点〕

- ・ 1 階のトイレに土足でいけない。
- ・ 大きいスポーツ用具、例えば移動式バスケットゴールを利用者が準備すると建物の柱や倉庫扉を破損してしまう。

○所感

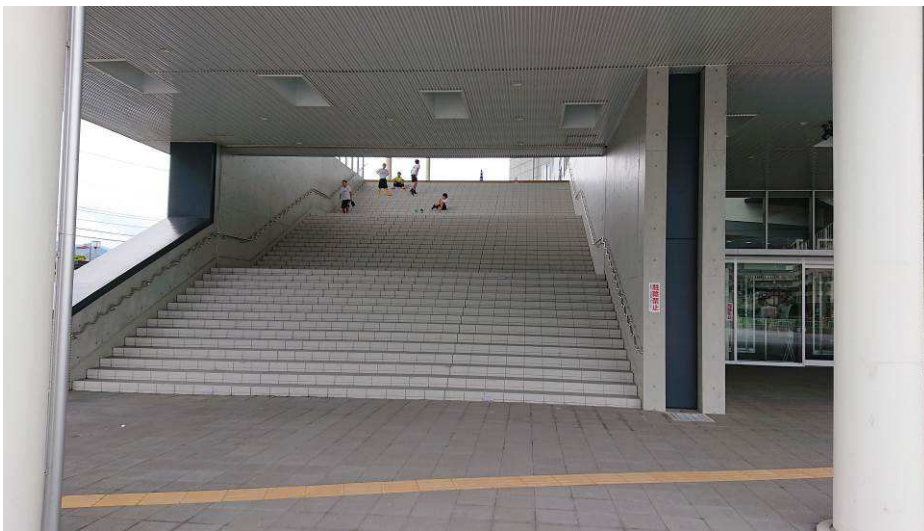
市の土地が史跡指定により制限され、土地が限られたところに、2 階にアリーナという設計アイディアに関心を抱いた。市の人口、若い世代も増えているということで、スポーツ交流人口の拡大をテーマにしている我々常任委員会にとって、今後の活動に活かせる非常に有益な施設であった。



3 F のランニングコースから 2 F のアリーナを見学



2 Fのアリーナ
の様子



2 Fアリーナへ
続く正面玄関脇
の広めの階段



スポーツ選手の
サインが記載さ
れた指定管理者
の旗



とびうめアリー
ナの愛称が刻印
された正面玄関
にて

以上、令和元年7月22日～7月24日に実施しました、教育福祉常任委員会行政視察の報告書といたします。

令和元年9月

大船渡市議会議長 熊谷昭浩様

教育福祉常任委員長 船砥英久